第201回 長崎大学FD実施報告書（令和2年2月26日提出）

１．題　　目　：　eラーニングで「講義法の工夫」と「グループワークの工夫」を学ぶ

２．日　　時　：　令和2年1月6日（月）－1月31日（金）

３．場　　所　：　eラーニング型（LACSコミュニティ活用）

４．主　　催　：　大学教育イノベーションセンター

５．対　　象　：　全教職員

６．長崎大学FDに関する申合せ第2第1項の該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）：
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のFDの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）：
多くの授業で実践されている講義法の効果を高めるための要点を紹介すること、およびグループワークを導く上での工夫について紹介することで、学生の思考を促すために踏まえておきたいことを理解し授業で実現できるようになることを目標とする。本FDでは新たに作成した動画コンテンツを利用することで、多忙な教員にも機会を広げるとともに、授業実践の基礎となる情報をアーカイブとして提供することが可能となる。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）：
1. 動画コンテンツの視聴（講義法に関するもの［30 分程度］＋グループワークに関するもの［30分程度］）
2. 受講後課題（「動画内容を踏まえて、自身の授業をより良いものにするために具体的にできそうな工夫についてまとめる。」という課題（Microsoft　Word 版の記入フォームに入力）を提出。）

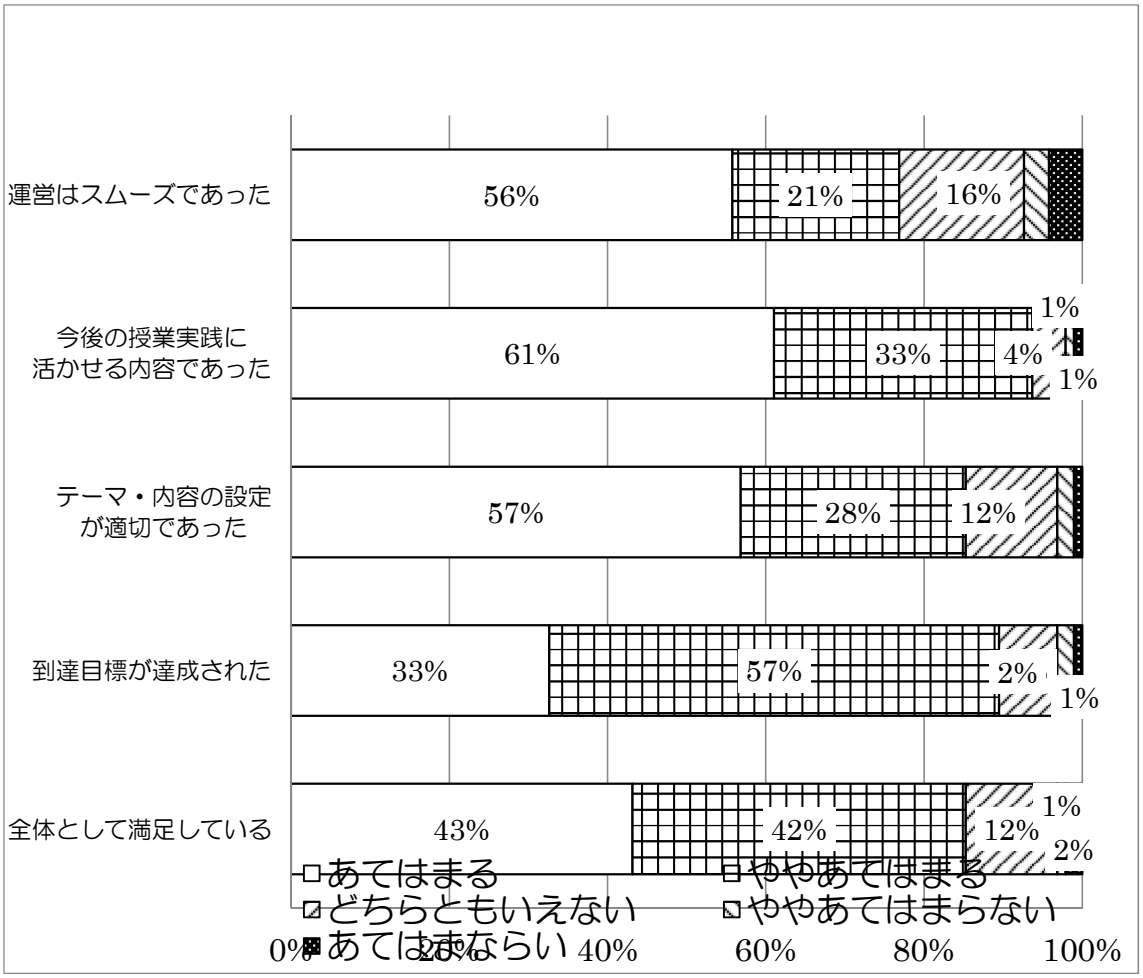
９．参　加　者：　146　名（受講証明書発行対象者：　116　名）

（内訳）

所　属	人　数
原爆後障害医療研究所	17
原爆後障害医療研究所附属放射線・環境健康影響共同研究推進センター	3
人文社会科学域（教育学系）	3
人文社会科学域（経済学系）	1
生命医科学域（医学系）	55
生命医科学域（歯学系）	1
生命医科学域（保健学系）	3
生命医科学域（薬学系）	3
先導生命科学研究支援センター	1
総合生産科学域（環境科学系）	1
熱帯医学研究所	8
保健・医療推進センター	1
留学生教育・支援センター	1
病院	18
計	116

１０．実施したFDの成果等：

（1）参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



●今回のプログラムについて，お気づき・ご意見・ご感想。

・フィードバックの提出という方法が良くわからなくてできませんでした。

・自分の都合の良いタイミングで学習できるので良かったです。

・受講の仕方がわかりにくい。

・もう少し早口でも良いと感じた。

・授業を組み立てていくうえで大変参考になった

・今回のテーマは私もグループワークを行っているので、非常に参考になった。ただ、限られた講義時間内で、学生の自己紹介的な方法を用いることは非常に難しいと感じた。

・特に問題点はありませんでした。わかりやすいコンテンツでした。

・講義の方法についてまとまった話を聞く機会はほとんどないので、勉強になった。

・グループワークを取り入れる授業形式について、具体的な工夫も含めて学ぶことが

できました。
・とても聞きやすい講義でした。演者が見えないのが残念。
・役に立つ内容だった。具体例がスライドにあると分かりやすい。
・実際のデモ授業の動画などがあるとよりわかりやすい。
・分かりやすくまとまっており授業を進めるにあたり参考になった。
・コメントにも述べたように、国家試験合格を最終目的とする学部とそうでない学部では教育のやり方は異なると思います。国家試験合格を最終目的とする学部では、このような悠長な講義形式は不向きです。
・登録に手間取りました。
・クリッカー、think-pair share など内容だけでなく、その使用のタイミングも重要であることがわかり、講義の進めていく上で大変ためになりました。
・動画の画面が白色の背景のみの時があり、動画が流れているのかが分かりにくい。動画再生中にスライド資料をダウンロードしようとすると、動画が最初からに戻ってしまう。
・授業経験が少ないのでこのような機会があると助かる。
・入り方が面倒。
・資料スライドにもう少し情報が多いと今後振り返る際により参考にしやすくなると思う。
・新任の教員に分かりやすい良い内容と思いました。
・簡潔にポイントがまとまっており、短時間で学習効果が得られた。非常に良いプログラムであった。
・講義の中で紹介されていた「教員のためのマニュアル」を資料で配付もしくはリンクを入れて欲しい。
・講義に加え、他の先生と担当する実習が多いため、グループワークの工夫などは、非常に参考になった。
・講義法の工夫は良かったが、グループワークはそのような機会がない。話し方が、ややゆっくりすぎる。もう少し短時間にして欲しい。
・実際の講義の状況によって、取り組みが難しい講義科目もあります。60 分授業、120 人を対象とする中で、どこまで、個別に発問ができるのか、もう少し詳細に知ることができればと、考えました。
・各教員で講義のレベル、内容が違うので一概に当てはまらないと思いますが、方法論は知っておく必要があると思いました。
・新たな視点で授業を行なえると思う。
・参考になりました。もう少し早くこのようなＦＤがあればと思いました。
・時間も適切で分かりやすい内容であった。
・充実した内容であった。グループワークについて、もう少し踏み込んだ進め方も知

りたい。
・私のところに送られてきたメールの内容だけでは、アクセスコードが分からず、受講できなかった。平日には時間がなかなか取りにくいので、余裕ができた休日にしようとしたが、休日のため、ICT 基盤センターに電話での問い合わせも出来ず、医学部の知合いに問い合わせたところ、医学部ではメールに「アクセスコード」が記載されたファイルが添付されていたとわかった。転送してもらって受講することができたが、最初から添付しておいてもらえれば余分な時間をとられずに済んだ。
・学習量を担保できるかどうかについてはいささか疑問。
・LACS に入ってからの登録の仕方などの説明が不十分でわかりにくいのでメールで説明のリンクも張ってほしいです。教職員ポータルを開いてどこに説明があるのかもわかりにくかったです。
・もう少し時間が短いと助かります。
・講義を面白くするための講義にしては、あまり面白くなかった。
・e ラーニングを開始する際、コミュニティに登録する時にすぐに登録できずにアクセスを拒否されるのは問題だと思います。もう少し改善してもらいたい。
・テーマを絞った話が聞けてたいへん有用であった。
・ゆっくりと話していただいたので、聞き取りやすかったです。
・声が聞き取りやすくわかりやすかった。
・各学部で異なった事情もあることから、それにも対応してほしい。
・使い方がマニュアルを読まなければよくわからない。感覚的に使えるものでないと無駄な時間を要してしまう。(LACS e-Learning) グループワークに関しては、一般的では？
・スライドがシンプルでわかりやすかった。
・動画の長さと内容は適切だったと思う。
・自分の授業方法を振り返るきっかけとなった。今回の FD で学んだことを取り入れていきたい。
・FD の見方が難しかったが、e-learning で受講できるのはとても良いと思いました。
・グループワークについては、臨床研修指導医講習会と重複した内容。二度手間である。
・グループワークに割く時間をつくるのが難しそう。
・モデル授業の動画などがあれば、もっといいかもしれません。
・自分の空き時間に受講できるという点において，非常に助かった部分が大きかったです．今後もこのような機会で公聴できればいいなと思いました。
・実際の講義やグループワークで役に立つ内容でした。ありがとうございました。
・実際の授業風景などが見れるとよりイメージしやすいかなと思いました。
・とても分かりやすく、今後参考にさせていただきます。

・学生の思考を促す講義の工夫を学ぶことができて、今後の授業に活かせる内容だったと思います。
・動画がものすごく重かった（速度的な話）。
・現在担当している講義に合致する「講義法の工夫」の方が特に役に立ちました。
・プログラムにアクセスしにくい。
・提出課題では、学部講義について改善点などをレポートしたが、学部混成のモジュール科目では、根本的な学生の受講態度を改善させたい。このFDで得られたTipsを地道に実践していきたい。
・「グループワークの工夫」について「ループリックによる自己評価」のところで、「ティーチングティップスに”グループワークのルーブリックがあります”との紹介をして頂き、ありがとうございました。この「ティーチングティップス」をどこで入手可能であるかが分かりづらかったので、参考資料としてURLを記述して頂くなどして頂けますと助かります。全般的に、有益な内容をどうもありがとうございました。
・グループワークについて勉強したかったので，良い時期にFDが開催され良かった。ファシリテーターとしての教員のやり方について，具体案も聞きたい。
・自分の授業方法について考え直すきっかけになった。
・到達目標が明示されている点が良かった。また、具体例が挙げられていて理解しやすかった。話し方は少し遅すぎると感じた。
・スライドもあるため、見直しやすかった。
・改めて授業改善のポイントを学ぶことができた。
・話し方がゆっくり過ぎる。
・これまで教えてもらったことがない分野なので新鮮でした。
・発問は，小学校の授業などでよく使われる子供向けの方法のような印象があったが，大学など大人相手でもうまく使えば有効なのかなと感じた．（ただ，大人相手に発問する（知ってって聞いている）のは少し失礼な感じがまだ拭えない．また，自分が大学生の時に授業で発問された記憶がほとんどない．）グループワークに関しては，最適なグループ分けの方法や，15回授業での最適なグループの組み替え回数，最適なグループの人数などを知りたいと思った。

●長崎大学FDとしてとりあげるテーマ・内容について，ご意見・ご要望。
・退屈させないスライドの作成法について、初めから興味がない学生の興味を引く方法などももしあればテーマとして取り上げていただけたらと思います。
・さらに学生が意欲的に学習できるための授業設計について学べる機会をよろしくお願いします。
・積極的でない学生に対する対応の仕方を教えてほしい

・長崎大学が教育職員に何を求めているのかを取り上げて欲しい。
・学生の学習意欲や授業態度における温度差にどう対処するか。
・学生の指導方法、特に叱り方が難しいので取り上げてほしい。
・パワハラ、アカハラについて。
・動画コンテンツの授業実践例を、これからもご紹介頂きたいです。
・FD 講演会になかなか参加できないので今回のように e-Learning があると助かります。
・さまざまな講義法。
・国家試験合格を最終目的とする学部とそうでない学部によって、教育 FD 内容を分けるべきです。
・事務関係が作るポンチ絵の改善をお願いします。
・今回のような授業についてのアイデアや最近のトレンドを紹介してくれる FD があると嬉しい。
・スライドの作成方法。
・医学部の授業は知識の一方的な伝達になりがちであるため、そうした授業においてどのようにグループワークを導入すればよいかの具体例を示した実践的な情報が欲しい。
・LACS 上での e-learning 用の動画およびテスト問題の作成と利用について知りたい。
・アクティブラーニングを促進するための工夫（受講者の立場で）。
・情報整理の効率的な方法など、何となく自己流でやっている日常業務にハウツーがあるなら知りたいし改善したい。
・今回のような講義関連。
・学生が興味を持つスライドの作り方。
・効果的な情報発信と活動の見える化。
・教育法は重要であるが、専門により該当するものとしないものがある。もう少し幅をもたせ、選択できる方がよい。
・学生の授業への関心・態度。
・研究テーマの見つけ方、研究や論文発表について。
・英語教育に関して。
・学生とのコミュニケーションの取り方など（学生のメンタルヘルス）。
・参加型授業における（より簡単な）ソフトの具体的な使用法。
・大人数講義での興味を持たせる方法。
・人を引き込む話術。
・ネット環境を利用した指導方法。
・本テーマのように、講義法について、が大変参考になります。
・ハラスメント対策。

・到達目標に到達しない学生に対して、到達させるための手段をどう講じるか。それでも到達できない場合、その科目は落として、次年度に到達を求めるべきだと思いますが、その認識が教官で不十分であり、到達目標に到達できていない学生が修了している現状があります。医学部の場合、国家試験合格率の低迷がそれを裏付けていると思います。FD でこのテーマについて議論する価値はあると思います。
・今後もこのような講義を系統的に行っていただきたい。
・スライド画面のよりよい構成など
・適切な試験問題の作成法。特に選択式試験の正しい作成法を全ての教員に理解してもらいたい。
・具体的に、教育法を改善すると、どのような効果があるのかを研究した成果を紹介してほしい。
・ICT を使った講義。
・学生とのコミュニケーション方法について。
・学生にとって満足感の高い授業を行うためにはどのような工夫が必要か知りたい。
・リーダーシップ醸成セミナー。
・新たに赴任された新人教員のための集中講義があれば望ましい。
・以前にあったテーマかもしれませんが、LACS の授業へ活用方法。実際に FD の時に試してみたいです。例えば、スマートクリッカーや掲示板。
・聞きたい講義の FD もありましたが、子供の迎え等があり 17 時には出ないといけないのでいけないのが多かった。17 時までに終わるようなものをもう少し増やして欲しい。
・学生に対するケアの仕方等，学生対応の際に役立つような内容のことについて心理学等の観点からお聞きしたいです。
・スライド作成の基本や使い方など。
・参加型授業を実践するための方法を学べると有難いです。
・カリキュラム開発・評価について。
・このような e-ラーニングの形態だと、興味のある FD を気軽に受けることができて、良いと思います。今までも FD で講義の工夫について実践で学びましたが、その時の振り返りにもなったと思います。
・ハラスメントに関する注意点と対応法。
・教えないといけない分量と講義時間を考慮した上で、どういう工夫が可能か教えて欲しい。
・LACS を活用した事例集を共有する（既に実施済みかもしれませんが)。
・門田レポートや長崎大学の臨床実習における学生の臨床手技について，何年生がどこまで可能かを知りたい。
・100 人以上の大人数の学生を対象とした授業の工夫（講義メインでグループワーク

の実施が困難な場合）
・授業に英語を取り入れる方法など。
・大学入試問題の作成の方法。

（2）総　　括

【実施成果について】

フィードバック回答者の 61%が「今後の授業実践に活かせる内容であった」という質問に「あてはまる」と回答しているため、概ね好評であったと言える。また、「到達目標が達成された」という質問には、33%が「あてはまる」、57%が「ややあてはまる」と回答しており、設定した到達目標についても概ね達成されたと言える。

フィードバックで得られた意見の中には、参考になったという意見も多く得られたが、一方で、実際に自分が指導している授業の目的・実態にマッチしていないという声もいくつか得られている。教育方法は目的に応じて選択されるべきであるため、今回紹介した方法がニーズにマッチしていなかったということである。具体的には国家試験合格のために大量の情報の伝達とその理解を目指す場合にはグループワークはマッチしないという声であったが、このニーズに対応した FD の企画を今後する必要がある。大量の情報を限られた授業時間内に教員が伝達・解説して学習者が正しく理解するということには当然ながら限界があるが、動画コンテンツの作成などによって、学習者の自学を促すことは可能である。本学には資格対応の必要な学部がいくつかあるが、今後、動画コンテンツの活用が期待される。

【自己登録による FD 受講について】

多くの受講者が、問い合わせなしに自己登録を完了し、受講完了までの所定の手続き（動画の視聴→視聴後課題の提出→フィードバックの提出）を終えられていたことより、e ラーニング型の FD として今回の方式は成功したと言える。しかしながら、より簡便な方式を考える上では、フィードバックコメントにもいくつか挙がっていたように、自己登録に必要な「アクセスコードの伝達方法」を工夫する必要がある。これについては、学内の一斉送信メーリングリストに「添付ファイル」を利用できないという仕様上の限界があるが、NUdrive などのストレージを利用することが適切かもしれない。受講者が「思い立ったとき」にすぐに受講できることを e ラーニング型の利点と考えると、可能な限り担当者による登録作業を排除し、受講者の作業のみで開始から完了までを終えることができる必要がある。そのためには最小限の自己登録作業手順を理解し実行できるための、よりわかりやすいマニュアルの開発が必要である。

【今後の FD の要望について】

「学生のモチベーション」に関する事柄が今後の FD の要望に複数挙がっている点は注

目にあたいする。個々の授業に関する課題としてだけでなく、大学全体の教学マネジメントの課題でもあるため、今後なんらかのかたちで FD を企画する必要があると言える。(モチベーションに関する心理学的な見解では、「行動の自己決定の度合い」が重要な点だとされている。これを乱暴に学修行動に当てはめてみると、「自分で目標設定をしてそれに向かって学ぶ」というキャリア教育の充実が欠かせないと言える。また、授業改善の観点からすると、「なぜ学ぶのか」「これを学ぶとどういうことを解決できるのか」といった学ぶ目的が学習者自身によって自覚されることが学ぶ行動を自己決定することにもつながる。そのため、到達目標を学習者と合意・共有して授業を進めることが、意欲を維持することには欠かせないと言える。本 FD でとりあげた「発問」の機能には「思考を焦点化」することもあるが、学生の授業に対する集中力を維持するために、小さな工夫として個々の教員が取り組むことが可能である。)

１１．実施代表者の連絡先：

大学教育イノベーションセンター
教授　北村 史
e-mail：kitamuraf@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2455

１２．申請者の連絡先：

大学教育イノベーションセンター
教授　若菜 啓孝
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2907